

学校自己評価・学校関係者評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉

社会で自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈教育目標〉

本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、デザイン、服装、ビューティーの業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①2020年度入学生の募集定員（170名）を確保
- ②高校・保護者・地域・企業に評価される教育実績を着実にあげる
- ③二校一体運営の更なる推進
- ④職業実践専門課程への取り組み
- ⑤新学校の将来構想に向けた取り組みの加速

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切） → 3（ほぼ適切） → 2（やや不適切） → 1（不適切）

(1) 教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u> 教育理念並びに教育目標は、年度はじめに各担当教員から入学生全員に口頭でその趣旨説明を行っている。また、教育目標には卒業時の到達目標が明示されている。 育成人材像等については、募集時の学校説明でも話しているが、入学時のオリエンテーションで学生便覧を配布し、再度説明しているが、進級後の在校生に対しての周知が徹底されていない。 3学科とも教育課程編成委員会を行い、企業ニーズを聞き、改善に努めている。 西部改革委員会が発足されており、継続的に育成人材像や業界のニーズに向けた教育について議論を重ねている。		
<u>今後の改善方策</u> 進級後の新学期開始時に、改めて該当学年の教育目標や学習内容を学生に周知していく。また、学校生活や学校の取り組みについては、ホームページ上での情報発信の機会を増やし、保護者等にも周知を図る。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・日々変化するニーズにアンテナをはり取り組んでいる。(山下委員)		<u>評価点</u> 4

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		3.9
<p><u>成果と課題</u></p> <p>①②③④⑦⑧カリキュラムは体系的に編成されており、実践的な職業教育も取り込んでいる。授業の実施と評価についても年度開始時に整備されており、学生便覧（教育課程表、成績評価基準、資格取得体制）を編綴し、学生に配布・説明をしている。④⑤各学科とも、専門分野の方を委員に入れた教育課程編成委員会を実施しており、今必要とされる技術や知識を念頭に置いた教育を行っており、その中に教育目標を落とし込んでいる。キャリア教育の一環で学科を超えた授業を実施し、就業意識を高め基本的なコミュニケーションなどの社会スキルの習得を目指した。また各学科で産官学の連携事業を実施しており、社会との接点を作り、ニーズを引き出している。</p> <p>⑥授業評価の仕組みは、学生アンケートを実施し状況を把握の把握、改善に努めている。</p> <p>⑨⑩学外技術研修への参加体制を整え、全ての専任教員が外部技術研修や教員の指導力育成研修に参加し、教員の資質向上を図った。</p> <p>⑪カリキュラム見直しは、職業実践専門課程申請予定学科を含む、職業実践専門課程学科では、教育課程編成委員会を開催（年2回）し、外部委員の協力のもとカリキュラムの作成・見直しを図っている。</p> <p>⑫目標に到達しない学生に対するフォローは、個別面談や授業時間外の指導で対応している。</p>		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>授業アンケートは実施できていない科目もある。担当講師へフィードバックも精度を高める余地がある。アンケートの実施や集計の方法を研究し、より迅速に遺漏なく集計できる仕組みを研究する。</p> <p>30年度より実施している現行カリキュラムの検証をすすめる。時期のカリキュラム改定へ向けて外部委員の補充を図り、企業・業界からの偏りのない幅の広い意見聴取に取り組む。</p>		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した教育編成を実施していると思う。より高みを目指して頑張ってもらいたい。（鈴木委員） ・技術と人間力の成長をさせるべく取り組んでいると思う。（山下委員） 		<p><u>評価点</u></p> <p>3.8</p>

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
学校自己評価 平均		3.5
<p>成果と課題</p> <p>①就職内定率 97.2%、専門職内定率（履修した分野に係る企業等への内定割合）82.9%を達成した。</p> <p>②資格取得では、資格試験の実施と検証のサイクルを実施しており、ほぼ例年の実績に近い資格取得実績をあげた。カリキュラム変更により新規実施の検定もあったが比較的高い合格率を得ることができた。その中でも色彩検定においては「色彩検定協会奨励賞」を受賞し、またマルチメディア検定ではグラフィックデザイン科 2 年西野琴絵が成績優秀で「文部科学大臣賞」を受賞した。</p> <p>③退学者の低減を図るべく、HR を増やし学生動向の把握に努めた。グラフィックデザイン科退学率 4.7%、ファッション流通科、メイク・ブライダル科は退学者なし。</p> <p>④同窓会の役員を選任し組織化を進めた。2 月に同窓会総会実施を計画し、案内状の送付や出欠回収を進める中で同窓会会員の状況把握を進めることができた。コロナウイルス感染拡大をうけて同窓会総会は延期となった。</p>		
<p>今後の改善方策</p> <p>細かく学生の声を聞き、さらなる退学率の縮小を図る。</p> <p>ひきつづき資格検定の精査は行き、学習成果の得られる検定取得に向けての展開を考える。</p> <p>新しく取組む検定試験が増えているため、その指導ノウハウを蓄積していく。</p>		
<p>学校関係者 評価コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと学生に寄り添った対応が成果に表れている。(鈴木委員) ・高い内定率で素晴らしいと思う。(山下委員) 		<p>評価点</p> <p>3.8</p>

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		4
<p><u>成果と課題</u></p> <p>①⑥⑧進路、就職については専任担当職員を置き、情報整理や指導を行っている。卒業生にも再就職のための相窓口も置いており、再就職支援できる体制になっており、数件の卒業生から相談を受けている。</p> <p>②④⑨学生相談は、担当教員が定期的な面接をするなど常に行っており、状況に応じて教務課長や校長が学生との面談に当たっている。また、カウンセリングは毎週 1 回、専門のカウンセラーが行っている。年度当初にはホームルームにてカウンセリング講座を行っている。毎朝ホームルームを行い、学生の健康状態など状況把握をしている。課外活動などもホームルーム単位で指導されている。</p> <p>③高等教育の就学支援制度の対象機関として、対象となる学生に対して国の修学支援を受けることができる。また学生支援機構の奨学金制度や、提携するクレジット会社の教育ローンが低金利で利用できる。</p> <p>⑦高等学校との連携を行って職業支援やキャリア教育の後援を行っている。</p>		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>スクールカウンセラーによるカウンセリングの周知を図り、学校生活や就職活動、私生活に渡りメンタル面のケアに努めたい。</p>		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		<u>評価点</u>
とても丁寧で熱い支援を行っており、申し分ない（鈴木委員）		3.8

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		4
<p><u>成果と課題</u></p> <p>①②③④学生を収容する講義室、実習室ともに十分な面積が確保されている。 学生の実習室にはパソコンが整備された部屋、写真、メイク、ヘネイル、接客販売ロールプレイの実習が可能な部屋、服飾等の造形実習が可能な部屋が整備されている。これらの講義室や実習室は管理担当者が置かれており、適切に管理運用されている。また、学生が受講する授業によって教室が変わる移動教室制を取っており、その授業を受講するにあたって一番適切な部屋を使用するようにしている。実習室、講義室は、学生が自学自習できるように解放されており、利用できる。また、休憩時間にも学生が過ごせる場所となっている。</p> <p>⑤防災訓練は10月に実施し、非常時の危機対策管理に対する周知徹底を図っている。夜間の不法侵入に対してはALSOKのセキュリティシステムを導入している。</p>		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>浜松日本語学院の移転に合わせ、効率的な施設・設備の整備計画を立案し、今後の活動に反映する。 学生人数に見合った機材整備に伴い、実習室の改修整備をすすめる。</p>		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <p>・既に効率の良い施設使用、充実した設備を設けているが、使用できるスペースが増えるとのことで、さらなる教育環境の向上に期待する。(鈴木委員)</p>		<p>評価点</p> <p>4</p>

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4
<p><u>成果と課題</u></p> <p>入学案内・募集要項については、虚偽のない正確な情報掲載を常に努めている。学校説明会は、4月から7月にかけて月1回実施した。オープンキャンパスは、3月から9月にかけて10回実施、ミニオープンキャンパスは10月以降4回実施した。入学選考は10月以降月1回実施し、3月は志願者ごとに随時実施した。</p>		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>今後も継続して紳士的な募集活動を行っていく。学納金については、教育の質の維持・向上、施設整備、消費税率など内外の要因を見極め、内部の効率的運営に努めながら適切に判断していく。</p>		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <p>・問題ない。少子化により生徒の確保が厳しい状況下ではあるが、知恵を絞り引き続き頑張ってもらいたい。(鈴木委員)</p>		<p>評価点</p> <p>4</p>

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己評価 平均		4
<p><u>成果と課題</u></p> <p>①法人内人事評価制度に従い実施している。②教務・総務・広報・就職部門間が連携して業務上の様々な問題解決に取り組んでいる。③④非常時における危機管理対策については、法人全体での対応が周知されており、学校毎の消防等安全に対する対応は常に行っている。また、5月に防災訓練を実施している。特に新入生や留学生に対して、早期に防災に対する意識を定着させ、いざという時に備えた学校生活を送ってもらう。⑤⑥⑨学校としての目的、事業計画に沿った運営方針は毎年策定され、学校組織の体制も常に見直しを行っている。⑦⑧就業規則を含む諸規程は整備されており、一部抜粋が規程集として全職員に配布され、また全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。</p> <p>⑩⑪教育活動に関する情報公開はホームページやパンフレット等を通して最新の情報を提供している。本評価についても公開している。⑫⑬⑭⑮⑯予算主義を基本とした運営に努めており、財務情報の公開、会計監査など経営上必要となる法令、設置基準に必要な法令は遵守している。⑰個人情報の取り扱いについては教職員への教育・指導を行っており、現時点で問題となる事例は発生していない。⑳ハラスメント防止のための委員会を設けている。</p>		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>「教育の質」を向上させつつ、効率的な経営に努める。法令順守を徹底し、保護者の皆様からの信頼維持に努める。</p>		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <p>・盤石な組織での安定した学校運営は、保護者や地域住民への安心、信頼から学校ブランドの向上や生徒の増加につながる。引き続き期待する。(鈴木委員)</p>		<p><u>評価点</u></p> <p>4</p>

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u> 印刷業組合のセミナー会場や、デザイナー協会の拠点としての教室利用、ネイル検定の登録会場など、専門分野における施設活用を行っている。 受け入れ態勢は整備されている。留学生の在籍は無いが、在留資格者の在籍を適切にサポートしている。		
<u>今後の改善方策</u> 業界団体とのパイプをさらに強化し、開かれた学校として施設利用の促進をしていきたい。 浜松日本語学院、浜松情報専門学校との情報を密にし、留学生の支援体制をさらに強化する。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・より産業界との接点を増やし、生徒が実社会で即戦力となる人材育成に期待している。(鈴木委員)		<u>評価点</u> 4